

-地域と大学を結ぶ- り え ぞ ん No. 6

編集発行：武庫川女子大学 教育研究社会連携推進室

充実する本学の地域連携活動

本学では、社会連携の活動が次第に数を増し、また継続的な活動も行われている。その中の際立った活動の概要を以下に紹介する。

【 日本語日本文学科 】

香港の小学生と文化交流

日本語日本文学科3年の日本語教育ゼミ(上田教授、野畑准教授)が7月16日(火)、香港の私立SFA小学校(St. Francis of Assis's English Primary School、聖方濟各英文小学)5年生30人を迎えて文化交流会を行った。

同校は1955年創立、男女共学の英文小学校で、中国語以外の科目は英語で学習し、高学年から外国語科目としてフランス語と日本語を選択履修できる。まさに多言語社会で生きる小学生だ。本学とは2015年から2年に一度、交流の機会を持っており、今回は夏季休暇を利用した修学旅行で来日した。

午前中は2組に分かれ、日本舞踊部有志による日本舞踊のワークショップと、加藤登紀講師の「英語で学ぶ日本」の授業を受ける学生との日本のゲーム、それぞれを楽しんだ。午後は、上田ゼミの学生が書道教室を開催し絵手紙を教えたり、野畑ゼミの学生と「和菓子とカルタ」のゲームをしたりと、日本文化を体験的に学んだ。



本学 HP より

【 英語文化学科 】

「カフェと、ビジネスと、コミュニケーション」

講演会開催

英語文化学科 第3系(ビジネス・コミュニケーション系)が7月24日(水)、中央キャンパス文学2号館で「カフェと、ビジネスと、コミュニケーション。」

を開催。

英語文化学科では、3年次から4つの系に分かれて専門教育が展開されており、毎年ユニークなテーマで講演会を開催している。今回の講演会は、国際ビジネスでのコミュニケーションを幅広く研究する第3系が主催した。



本学 HP より

【 教育学科 】

鳴尾小学校の2年生が学校教育館の屋上で『鳴尾いちご』摘み体験

5月14日(火)、西宮市立鳴尾小学校の2年生66人が、教育学科の酒井達哉ゼミのゼミ生が育てた「鳴尾いちご」を摘むため学校教育館を訪れた。今回のいちご摘みは、今年度小学校で実際にいちごを栽培する前の体験学習で、今後、秋から翌春にかけて、ゼミ生が栽培キットの使い方などを継続して指導する予定。

酒井ゼミでは教育演習、卒業研究の一環として、大学がある鳴尾地区で明治から昭和の初めにかけて栽培された「鳴尾いちご」を環境学習の地域教材として活用しようと学校教育館の屋上で栽培。西宮市内の2つの小学校で「鳴尾いちご」の歴史を伝える出前授業を行うとともに、栽培キットを環境学習教材として子どもたちにプレゼントする活動を行っている。



本学 HP より

ギネスに登録されている「世界一大きな授業」を実施

世界で同時期に、ほぼ同内容の授業を行う「世界一大きな授業」を、国際教育の一環として教育学部教育学科の授業やゼミで実施。国連が設定し「世界中の子どもが学校に通えるように(No one must be left behind!）」という目標実現に向け、日本の教育協力 NGO ネットワークや多くの国々の NGO が協力している活動の一環である。

この取り組みは 2003 年から行われ、2008 年には世界で 885 万人が参加し、ギネス登録もされている。



本学 HP より

【 健康・スポーツ科学科 】

ららぽーと甲子園で「体幹体操イベント」VOL. 3 を開催！

ららぽーと甲子園で 6 月 8 日(土)、「体幹体操イベント」が行われた。

「体幹体操」とは、一般社団法人 X-PORT JAPAN が取り組む“幼児の姿勢改善や体幹強化”“成人の腰痛や肩こり改善”につながる簡単で誰でも踊れる体操を日本中に広げようという活動。

当日は同法人との産学連携プロジェクトとして、健康・スポーツ科学科の学生が参加し、地域住民や子ども達と交流し、楽しい時間を持った。次回は秋頃の開催を予定している。

また、5 月 19 日(日)に行われた「第 49 回神戸まつり」のオープニングイベントにも参加した。



本学 HP より

アスリートネイルプロジェクトに市場調査や動画作成などで協力

インテックス大阪で 7 月 9 日(火)～11 日(木)に行われた『日本最大のスポーツ・健康産業総合展示

「SPORTEC2019」』で、短大 健康・スポーツ学科 穂原ゼミと産学連携プロジェクトを行っている株式会社 TAT が協同で「アスリートネイルプロジェクト」の宣伝ブースを出展。

穂原ゼミでは、開発にいたる使用テストや、市場アンケート調査を実施し、企画・撮影・編集まで全てゼミ生で作成した PR 動画を同ブースで上映した。

同社は西宮に本社を構え、ネイル材料の卸し・商品開発を行っている。



本学 HP より

【 食物栄養学科 】

「健康」をキーワードに丸大食品と新商品完成！

丸大食品株式会社が食物栄養学科の学生と考案した大豆ライフシリーズキーマカレー、麻婆豆腐の素が発売された。「健康」をキーワードに商品案やアレンジレシピを学生が考案。同レシピは商品パッケージ裏面にも掲載されている。



本学 HP より

学生が大丸梅田店 食品フロアの商品開発に参加

『美と健康元年』と銘うった大丸梅田店限定商品として、本学学生が開発した弁当やスイーツが地下 1 階、地下 2 階の食品フロアごちそうパラダイスで 5 月 8 日(水)～21 日(火)の 2 週間販売された。

サブテーマは「快調スタート DASH(ダッシュ)！」。Dietary Approaches to Stop Hypertension(DASH(ダッシュ)食)の言葉と重ね合わせ、高血圧予防・改善を目的に飽和脂肪やコレステロールの多い食品を控え、野菜や果物、大豆製品、海藻などを使用し、ビタミンやミネラル等も摂れるよう配慮された商品を開発。

学内選考・大丸梅田店の選考の後、11 品の開発が決定。使用食材や調理法、見た目や商品名まで、学

生たちと各ショップの店長が意見を交わし、改良を重ね、美味しいだけでなく美容と健康に有効な商品が完成した。



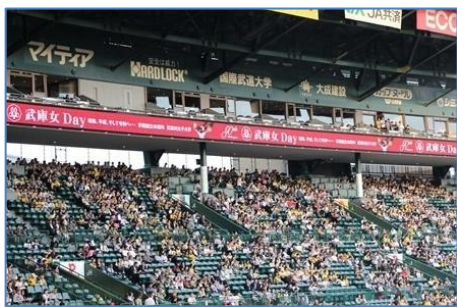
本学 HP より

【 情報メディア学科 】

学院創立 80 周年の「武庫女 Day」に丸山健夫ゼミが制作の大学 PR 映像を甲子園球場大型ビジョンで放送

5 月 10 日(金)の「武庫女 Day」のインニングの合間には、ライナービジョンや大型ビジョン（バックスクリーン）にたびたび「武庫女 Day」の文字が現れ、情報メディア学科丸山ゼミの学生が制作した大学の CM2 本も放映された。

「武庫女 Day」は、甲子園球場に最も近い大学であることをアピールしようと、プロ野球公式戦の協賛イベントとして 2009 年から毎年行っている。



本学 HP より

【 建築学科・大学院建築学専攻 】

国道 2 号歩道などの清掃ボランティア活動を行う

生活環境学部建築学科の 1 年生と教職員など 25 名が、6 月 11 日(火)、上甲子園キャンパスと接する国道 2 号沿いののり面や歩道の清掃を行った。

この活動は、2008 年 3 月に本学と国交省近畿地方整備局兵庫国道事務所が締結した「ボランティア・サポート・プログラム協定」に基づき、今回で 35 回目。延べ参加者は千名を超えた。

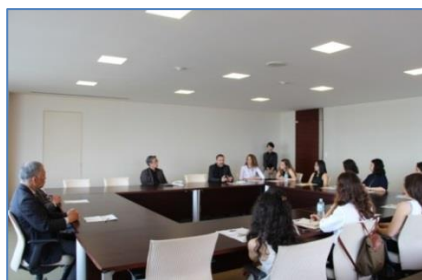


本学 HP より

トルコのバフチェシル大学からの留学生 10 人が大河原学院長と瀬口学長を表敬訪問

本学と学術・教育交流協定を結んでいるトルコ共和国のバフチェシル大学建築デザイン学部の学生 10 人が 7 月 10 日(水)、大河原学院長、瀬口学長を表敬訪問。

同席した岡崎甚幸建築学科長は、「当学科の設備環境は、欧米の大学と比較してもトップクラスで、構造や環境、デザイン等の専門教員もそろっている。トルコの留学生の中には本学大学院に進学し、日本企業への就職や、本学の博士号を得て、バフチェシル大学の先生になる人がいる。双方の大学でのインターナショナルな学びでトルコと日本の架け橋になってくれることを期待している。」と留学生たちを激励した。



本学 HP より

【 大学間連携科目 】

「ららぽーと甲子園に来て健康になる」をテーマにディスカッションした企画案を発表

大学間連携科目「地域活性化システム論」（食物栄養学科 長谷川裕紀講師）の最終発表会が、6 月 29 日(土)中央図書館棟で行われた。当授業では複数大学の学生が、大学や学科・学年の枠を超えて、其々の専門知識を生かしたグループディスカッションの上、地域の活性化に向けた施策を企画・発表した。

昨年度からは「ららぽーと甲子園」と連携し、実現可能なイベントを企画。今年度のテーマは「高齢者」をターゲットとしたイベント。藍野大学、大阪大学、大阪薬科大学、武庫川女子大学、の 36 人の学生が 6 グループに分かれ、豊かなアイデアの企画をららぽーと甲子園関係者や教員にプレゼンを行った。



本学 HP より

【 地域・自治体等との連携 】

本学と阪神バス・兵庫県警の共同プロジェクトにより完成した『ラッピングバス』が発車

「交通安全啓発」を目指したラッピングバスプロジェクトは、平成 30 年度後期より本学学生が協力。

教育の視点から社会におけるアートの役割を模索している藤井ゼミは、「横断歩行者の保護」をテーマに、附属幼稚園・附属保育園の子どもたち約 160 人が描いた絵をすべて配し、その笑顔とともに交通安全の輪が広がることを願った。

肥後ゼミは国内外の啓発ポスターの事例を調査し、飲酒運転の発生する心理的要因について理解を深めた。その結果、「飲酒運転が恥ずべき行為だ」とドライバーと周囲の人達が『再認識』することをコンセプトとし、「STOP 飲酒運転」をテーマにイラストを中心としたデザインに仕上げた。

4 月 8 日(月)に阪神甲子園駅前広場で発車式が行われ、2 台のバスは実際の路線バスとして今後約 5 年間は運行を続ける。



本学 HP より



本学 HP より

上甲子園小学校の 3 年生全 4 クラスの児童が「校区探検」で武庫川女子大学甲子園会館を見学

甲子園会館は上甲子園小学校の校区内にあるため、同小学校の 3 年生 129 人が、5 月 20 日(月)～21 日(火)に「校区探検」の授業で西ホール（甲子園ホテル時代の大宴会場）、2 階応接室（ホテル時代のカードルーム）、泉水、屋上や庭園などを見学。

見学後のインタビューでは、旧甲子園ホテルの工期や工事費、ホテルの従業員数や収容客数、ホテル時代の部屋の種類やなぜ本学の所有になったのかといった大人顔負けの質問や、会館の絵や彫刻の数、泉水で金魚を飼わないのかといった可愛い質問も出され、NHK の連続テレビ小説「まんぷく」のロケ地となったことから撮影に関する質問も多くかった。



本学 HP より

大阪市立大学大学院工学研究科および工学部と武庫川女子大学大学院および全学部が教育研究の連携・協力に関する協定を締結

6 月 7 日(金)、大阪市立大学にて教育研究の連携・協力に関する協定を締結した。

以前から、空き家問題をテーマにゼミの教員や学生の間で交流があり、こうした実績と信頼の上に、教育・研究を連携して推進するため、協定を結ぶことになった。まずは空き家問題で互いの研究分野を補完しあい、空き家に対する行政の対応から改修、活用まで、幅広く研究を進めていく予定。

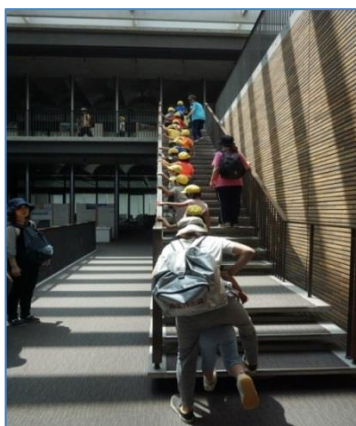


本学 HP より

西宮市立鳴尾北保育所の災害時避難訓練を武庫川女子大学上甲子園キャンパスで実施

本学上甲子園キャンパスで 6 月 26 日(水)、鳴尾北保育所の災害時避難訓練が行われた。当学院と西宮

市は、平成 24 年（2012 年）9 月の災害時の避難についての協定締結に基づき、隣接する鳴尾北保育所と毎年避難訓練を実施。今年で 8 回目となる避難訓練では、「保育中に大地震が発生し、5m 以上の津波が来る恐れがある」との想定で、園児 85 名が園長、保育士等に誘導され避難してきた。点呼の後、5 歳児は避難場所の確認も行った。



本学 HP より

放送部が「特殊詐欺被害防止」啓発の音声を録音、パトカーで地域に広報する啓発活動に協力！

兵庫県甲子園警察署で 7 月 2 日（火）、広報啓発のために本学放送部の学生が録音した「特殊詐欺被害防止」の CD の受納式とパトカーの出発式が行われた。

全国で多発する特殊詐欺の被害が、甲子園警察署管内でも発生している状況を踏まえ、同署から本学に対し広報啓発音声の作成の打診があった。放送部が協力して作成した広報啓発音声の CD を清水署長に手渡した。

式後には、パトカーが音声を再生しながら管内への広報活動に出発した。



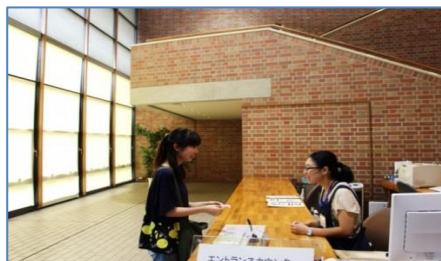
本学 HP より

関西大学総合図書館の利用が可能に

本学 中央図書館と関西大学 総合図書館を、双方の学生・専任教職員が相互利用できるようになった。昨年 11 月に本学と関西大学が包括連携協定を結んだことにより今年 5 月下旬からスタート。

今後、最寄駅からの経路や学生の手続きの様子、利用できるスペースなどを写真に収め、これから訪れる利用者に向けたパスファインダーを作成するな

ど、双方の学生・教職員のスムーズな利用に努める。



本学 HP より

【地域を対象とした連携推進支援事業(学内公募)】

教育研究社会連携推進室では、本学の地域での教育研究活動のさらなる活性化を目的として、「学生が地域の自治体や自治会、その他企業や団体等と連携して実施する地域の活性化に資する事業で、且つ、学生の研究やアクティブラーニング、更には教員の研究等に有効と認められる事業」を募集し、資金的援助を行った。

初年度となる今年は、様々な学部先生方から特色のある 8 件の応募があり 7 件を採択した。

《支援事業一覧》

◆文学部日本語日本文学科 講師 工藤 彰

西宮市・阪神間・ららぽーと甲子園を舞台とした映像コンテンツ制作

◆教育学部教育学科 教授 神原 一之

学習支援ルームらび

◆生活環境学部食物栄養学科 教授 内藤 義彦

健康づくり及び食育活動に関する地域と大学の連携の新しい展開

◆生活環境学部情報メディア学科 准教授 井上 重信

COSMECCO による「美と健康」を通じた地域活性化プロジェクト

◆生活環境学部情報メディア学科 准教授 平井 拓己

播州赤穂における町家再生を通じた地域活性化への取り組み

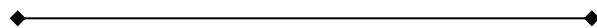
◆生活環境学部情報メディア学科 講師 和泉 志穂

香り商材と AR を活用した神社をモデルケースとした地域活性化事業

◆薬学部薬学科 教授 大川 恭子

地域共生の中で学び、育むこれからの薬剤師のあるべき姿

本事業は次年度も募集を予定している。



連絡先：本館 5 階 社会連携推進課 中村・荻田
内線：6211、6213 / E-mail: shakai@mukogawa-u.ac.jp